



# 校長室だより

令和5年度

2月27日

NO. 43

## 150年の歴史と伝統の上に立つ学校を支える思い

カラフルな様々な色の風船が、立春を過ぎた温かな空に飛び立ちました。150周年記念式典当日、式典に先立って、教師と子供で希望の思いを込めて、子供会さんのご厚意によるバルーンリリースが行われました。風もない春空へと立ち上っていく風船を、子供や保護者と共に、その姿が見えなくなるまで見送りました。きっと、150年前の春の空も、きっと今とそんなに変わらない空だったでしょう。けれど、当然、開校時には風船を上げるなどの習慣もないし、150年後に風船を上げるなどとは思ってもよらなかったでしょう。しかし、これから始まる学校に希望をもって、空を眺めた人はいたことでしょう。



明治5年に学制が公布され、明治6年には学区が敷かれ、秦梨小学校もその前身の学校がスタートしました。学制には「道徳を身につけ能力を引き出し、伸ばすことを学び、立身出世を可能にするのが学校である」「国民は必ず学ばなければならないこととする」（以上現代語訳したもの）とあり、当時の小学校はスタートしましたが、今当たり前のようにある「学校」とその当時の「学校」の捉え方は大きく違ったことと思います。さらに実際に、今のように小学校が義務となったのは明治19年の「小学校令」は発布されてからで、当時は小学校を卒業し、中学や高等女学校に上がり卒業するのは10人中1~2人、当時の尋常小学校が最終学歴という人がほとんどであったと言います。そうした面でも「小学校」は、子供の学びや成長の中心であり、学区の中心であり、とても大事な場所であったことと思います。

講師でお招きした「金子みすゞ記念館」館長の矢崎節夫先生も「私の小学校はなくなってしまった」と言われていたように、そうした歴史のある学校が、150年もなくならずに存在し続けたことは、奇跡なのかもしれません。だからこそ、これからも、私たちの「秦梨小学校」がここ秦梨にあってほしいと願うと共に、いつまでも「秦梨小学校」が残っていくように、みんなで守っていかなければならないと、強く思いました。

17日に行われた記念式典の大きな特長は、子供たちが主役の式典であったことです。式典の中の児童アトラクションの中では、金子みすゞさんの「わたしと小鳥とすずと」の歌を歌い踊り、秦梨小クイズをして、最後に校歌を歌いました。「わたしと小鳥とすずと」では、金子みすゞさんの詩に乗って、子供たち全員でエネルギッシュに楽しく歌いました。中



でも1,2年生のダンスは、生き生きとして、詩の内容にもぴったり合ったと矢崎先生からもほめていただきました。秦梨小のクイズでは、秦梨小の昔から今に関係する、子供たちが考えたクイズを、参加者の方にも楽しんでもらえました。参加者は迷いながら、指で、

1～3の選択肢を示し、その答えに、歓声が聞かれたりもしました。校歌では、子供たちだけでなく来賓や参加者の方々も、一緒に歌う姿が見られ、同じ秦梨小で学んできた仲間同士、気持ちがそろったように感じました。さらに式典や講演会でも、日頃ごそごそしてしまう子たちも、一生懸命にお話を聞く姿が見られました。この記念式典を大事に考え、真剣に式に臨むことができたのは、秦梨っ子のすばらしさであり、秦梨の伝統とプライドのようなものに培われたのだと感じました。

式典の後に行われた、「金子みすゞ記念館」館長の矢崎節夫先生のご講演も、とても分かりやすく、みすゞさんの詩のことがよく分かり、そして今の時代にもぴったりと合った、とても有意義なひと時を過ごせました。有名な「みんなちがって、みんないい」の「わたしと小鳥とすずと」の詩で、詩中、「すずと、小鳥と、それからわたし」となっていることを教えていただき、そこにかくされたみすゞさんの考え、生き方についてもお話してもらいました。そして、「わたしとあなた」ではなく、「相手を先」に考えることが大事だと教えていただきました。また、「子供はみんな生まれただけで100点満点」だと言っていたとき、子供たちも心がほっこりしたことと思います。子供は「未来」であり、大人にとって「子供は宝」であると、言っていたとき、改めて、そんな子供を大切に、成長を見守っていきたいと思いました。



日を改めて26日には、150周年の記念植樹が行われました。田の先生の早川さんの育てた四季桜の苗を、田の先生の鈴木さんの指導のもと、全校で植樹しました。最後は全員で土をかけ、これから咲くであろう桜に、思いを寄せました。まだ、ちょうど子供と同じくらい大きさの桜の苗が、子供の成長とあわせて、育ってくれることを祈りながら、将来、子供たちが母校「秦梨小」を訪れたときには、その記念や自分の成長を振り返るとよいと思いました。

150周年は、学校にとっても、子供たちにとっても、一通過点にすぎませんが、こうした記念を通して、学校やそして自分自身を振り返り、学校や自分たちの未来を考えるきっかけになるのだと思います。そして、いつまでもこの秦梨小学校が、子供たちの、そしての学区の心のよりどころとしてあ



るよう、この150周年のことを胸に焼き付けてほしいと思いました。

2024年(令和6年)2月18日(日曜日)

# 歌やクイズで祝う



**岡崎市立秦梨小学校 創立150周年記念式典**  
 岡崎市立秦梨小学校 全校児童ら約140人で17日、創立150周年記念式典が開かれ、山本伸校長は「歴史ある秦梨の地で学校がスタートしてから150年の歴史を重ねてきた。150年前とは生活環境が変化してきたが、豊かな自然と学校の魅力は変わらないうちに、今後も子どもたちや学区の皆さまの心のよりどころとなればとあいさつした。児童によるアトラクションでは、童謡詩人・金子みすゞの詩にメロディーを付けた歌「わたしと小鳥とすずと」を披露する児童＝岡崎市立秦梨小学校で

「わたしと小鳥とすずと」を披露。学校の特徴や歴史を題材とした三択クイズもあり、子どもらで育てているコマ「ミネアサヒ」や敷地裏の「にこにこ山」校訓などにちなんだ問題を出题した。  
 みすゞの全作品を「発掘」した、童謡詩人の矢崎節夫さん(76)による記念講演もあった。「みんなちがって、みんないい」を演題に、みすゞの作品やそこに込められた思いなどを紹介。「みんなは生まれただけで100点満点の存在」と力を込めた。  
 同校は1873(明治6)年に「三首学童」岡崎市立秦梨小学校として創設された。(犬塚誠)